

7-3

特養ホーム入所判定評価基準の現状

入所判定委員会の取り組み

入所判定委員会

入所判定評価基準

ふ ちゅうしりつとくべつようごろうじん ほーむ えん
府中市立特別養護老人ホームあさひ苑

相談員・井上 紀子

東京都府中市朝日町3-17-1

TEL 042-369-0080

E-mail : asahi@tama-dhk.or.jp

FAX : 042-364-4683

URL : <http://www.tama-dhk.or.jp/asahi/>

今回の発表の施設
またはサービスの
概要 10p

府中市立あさひ苑は社会福祉法人多摩同胞会が市の委託を受けて平成5年に開設。公設の施設として特別養護老人ホームと高齢者在宅サービスセンター、在宅介護支援センターを運営している。

〈取り組んだ課題〉

点数化により、高齢および重度（要介護4・5）の方が高評価となることで、真に特養入所が必要な方が取り残される現象が顕著になっている。そこで施設内の入所判定委員会にて点数重視の入所判定評価基準の見直しに取り組んだ

〈具体的な取り組み〉

- ① 入所判定委員会・・・施設長・副施設長・次長・相談員・看護師・外部機関職員 10名で構成されており、3ヶ月に1度入所判定会議を開催。点数化による待機者リストから候補者4～5名を選考する
- ② 入所判定会議後、約1ヶ月かけて相談員・看護師が候補者に連絡もしくは訪問調査を実施。
→ 「今はいいです」と辞退する方もおり、点数化で高評価の方とすぐに入所を希望する方が100%ではない場合が多かった。
- ③ 介護度抜き（介護度を反映させない）の待機者リストを作成し、既存のリストと比較
- ④ 点数だけではなく、生活能力や社会性の状況にも着眼して候補者を選定する

〈活動の成果と評価〉

実際の連絡や調査から、介護度が高い方が必ずしも入所の必要性が高いというわけではないことが判明した。
介護度抜きの待機者リストと通常の待機者リストを比べるとそれぞれ上位は違う利用者となった。また介護度抜きの待機者リスト上位とは在宅介護支援センターでの困難ケース利用者が合致する割合が高かった。

入所のニーズは認知能力や生活能力の低下した方に見出せるといえる。しかし、現在の入所判定評価基準ではそのような方々がほとんど上位にあがっていないため、真に必要な方を救えないシステムとなっている

〈今後の課題〉

入所判定評価基準を見直す時期にきているのではないかと。重度の方ばかりを選んでいたので、真に困っている方を救えないことになる。特養には利用者を守る福祉機能の役割が必要である。

〈参考資料など〉

- 待機者リスト
- 介護保険施行後に入所した市内ケース事例